

1. 主題 LGBTQ+の今日的課題について (B-11 相互理解・寛容)
2. 教材 「あるがままの自分」で この社会に生きていく (自作教材)
3. 日時 2022年(令和4年)11月18日(金) 第2校時
4. ねらい ありのままの自分たちで居ようとする主人公たちを通して、人の考え方や生き方は多様であり受容される社会をつくらうとする道徳的心情を育てる。

5. 主題設定の理由

本学級の児童は、1年生の頃から単学級で構成されており、全員が全員のことを良く知る間柄である。実に様々な性格の児童が在籍するが、誰ひとりとして取り残されることのない団結力のある学級である。しかし一方で、距離が近い分、自らの意志や行動に相手を同調させる場面も少なくなく、相手が何を思っているのか、何がしたいのかを押し量る点が不足することがある。また、自分たちの生活範囲が全てと認識しがちであり、様々な情報を取り入れることなく自分たちの世界で完結させてしまう一面もある。

さて、相互理解とは、「双方で、同じことを理解し合うこと」、「相手の立場や気持ちを汲み取ること」の意味を合わせた四字熟語である。また、寛容は「よく人の言動を受け入れること」の意味として成り立っている。

これらの言葉が生まれた背景には、近代史以前において見られた主従関係、とりわけ身分の差を階層化した政治・経済構造や、列強による帝国主義やナショナリズム下において行われてきた国民統制や植民地支配による人権侵害などが挙げられる。その多くが「主義・思想の画一化」によるもので、人々の多様な意志や思考、行動を退けてきた過去がある。戦後の民主化に伴いそれらの統制や侵害は消失し、個人の尊厳を憲法で保障する時代へと移り変わった際に、人権感覚の向上をめざして掲げられた言葉が「相互理解」や「寛容」である。多様な社会が豊かな未来を形成する土台となることから、誰しもお互いを認め合い、受け入れ、より良く生きていく姿勢が本学級の児童を育てる上でも重要な道徳的資質能力である。

本教材「『あるがままの自分』で この社会に生きていく」は、授業者の知人の生き方についてインタビューしたものを文章化してまとめた自作教材である。女性同士で婚約した2人は、自治体で婚姻届を受理されることなく「パートナー」として共に暮らしている。社会的に夫婦として認められなかった辛さを感じながらも、自分たちの人生を強く歩みゆくその姿に寄り添い考えることは、児童一人ひとりが人間の多様性を認知すること、多様な人々が織りなす社会を形成していこうとする心情を育むことに適した学習材になると考えた。

指導にあたっては、明石市が積極的に取り組んでいる「LGBTQ+」に関する授業を数回に渡って構成しており、性的マイノリティに関する知識や当該者との関わりを通じて児童の思考や表現を育む内容を軸としている。本教材学習前には、明石市政策局ジェンダー平等推進室による出前講座「LGBTQ+とSOGIEについて」を受講し、性的マイノリティに関する知識を得ている。そうした人々が存在していることを認識した上で、その人々がもつ悩みを知り、どんな姿勢でいることが大切かを考えていくことを本時の展開としたい。

本教材の学習において、基本発問「どうしてAさん・Bさんの結婚を証明する婚姻届は提出できなかったのか。」では、婚姻が男女一対という組み合わせでしか成立しない制度に着目させLGBTQ+やSOGIEの考え方のズレを認識させる。具体的には、本物の婚姻届(写し)を児童に配布し、婚姻者欄(夫になる人・妻になる人)に着目させることで、男女の分別が必要条件であることに気付かせたい。

中心発問ではAさん・Bさんは「『私たちらしく生きていく』中で、なぜありのままの自分たちを隠して生きてきた過去があったのだろう。」では、登場人物の思いを素直に周囲に伝えることで差別や偏見を受ける恐れが予想され、回避するために自分の言動を偽ってきた状況を共通理解する。そして、当たり前や普通といった概念を自明視させ、多様化を受け入れれば誰もが暮らしやすい社会になることを理解させる。特に、「自分の気持ちに正直であること」という意見が出た際にめだつように板書し、自分らしく生きていくことは価値があることに気付かせたい。

そして価値発問「誰もが、自分らしく生きていくことのできる社会とは、どんな社会のことだろう。」では、自分という存在をありのままに受け止めてくれる社会の中に本当の生きがいを見つけられることに気付かせたい。また、冒頭の相互理解や寛容につながる場面となるため、言葉とキーワードをつなげて価値化する。終末では、日本全国でパートナーシップ制度を導入している地域の分布図を提示し、日本国内の課題について考えるとともに本時のふり返りを行う。

6. 学習展開

	学習活動（主な発問、予想される児童の反応）	留意点（・） 評価（◇）
導入	<p>1. 相互理解について考え、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>なぜ、お互いを理解し合うことは必要なのでしょう。 それによって、どのような良いことがありますか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いを知ることについての考えを発表することで、仲間の感じ方を知り教材への関心を高める。
展開	<p>2. 「『あるがままの自分』でこの社会に生きていく」を通して考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>基本発問 どうしてAさん・Bさんの結婚を証明する婚姻届は提出できなかったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性と女性が結婚することが世の中の常識として理解されているから。 ・法律で決まっているから。 ・AさんとBさんは、男性と女性ではないから。 ・その仕組みを知っていても、AさんとBさんは一緒に生きてきたかった。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>中心発問 Aさん・Bさんは「私たちらしく生きていく」中で、なぜありのままの自分たちを隠して生きてきた過去があったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありのままの自分たちが、社会に受け入れてもらえなさそうだったから。 ・差別や偏見の目を恐れて、自分らしく生きていくことが辛かったから。 ・本当に思っていることを言えない社会で良いのだろうか。 ・わたしたち以外にも、同じ悩みをもって苦しんで生きている人たちがいることに気付いてほしい。 ・「普通・当たり前」って、何？ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>価値発問 「誰もが自分らしく生きていくことのできる社会」とは、どんな社会のことだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のありのままを受け止めてくれる社会。 ・誰にも傷つけられることなく、自分のことを温かく見守ってくれる社会。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に範読を行っていることから本時では範読をせず、基本発問につなぐため、婚姻届を受理されなかった内容を確認する。 【夫婦として認知されない・社会保障がない・トラブルが想定される・自分たちらしさを否定される】 ・社会制度と市民のニーズのズレに気付かせる。 ・同性婚の抱える悩みを共感させるために、婚姻に関する制度上の問題点（男女一対）に着目させる。 ・価値発問につなげやすくするために、「男性と女性が結婚する常識」についての意見が出た際に焦点化できるよう黒板にマークする。 <p>◇自分らしさを大切にできる社会の良さに気づき、多様な価値観の受容について自分の意見をもっているか。</p>
終末	<p>3. 学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「パートナーシップ制度 日本の自治体の現状について」の資料を紹介する。 ・ふり返りカードを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入に返り、相互理解についての自分の考えを書く。

7. 教材分析シート

教材名（出展）	「あるがままの自分」で この社会に生きていく	
主題・内容項目	LGBTQ+の今日的課題について（B-11 相互理解・寛容）	
教材を読む （骨格をつかむ）	①生き方を自覚（変化）したのは誰か（主人公）	同性婚をした夫婦（Aさん・Bさん）
	②生き方を自覚（変化）することになった出来事（助言）は何か	自身の性自認と相手との信頼関係
	③生き方を自覚（変化）するのはどこか	共に生きていこうと意思を固めた時
道徳的価値の自覚を深める指導をするために		
	児童の発言や記述	
	<ul style="list-style-type: none"> ・婚姻届が受理されなかった時の感情を感じて欲しい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「男性と女性が好きになる」ことだけが、人の生き方ではないという考え方を広めたい。 ・差別や偏見を無くし、ありのままの姿を受け止めてもらえる社会になってほしい。 ・同じ悩みをもつ人々の気持ちを分かかって欲しい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と異なる考えや立場を受け止める。 ・多様な人間が共により良く生き、創造的で建設的な社会をつくっていかうとする。 ・どの生き方でも安心して暮らせる社会を形成しようとする。 	
ねらい		
ありのままの自分たちで居ようとする（道徳的に変化する）主人公を通して、人の考え方や生き方は多様であり、受容される社会をつくろうとする道徳的心情を育てる。		
発問		
	発問内容	予想される児童の反応
基本発問 （場面を共通理解する）	どうしてAさん・Bさんの結婚を証明する婚姻届は受理されなかったのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・法律で決まっているから。 ・男性と女性である必要があるから。
中心発問 （道徳的価値について話し合う）	Aさん・Bさんは「私たちらしく生きていく」中で、なぜありのままの自分たちを隠して生きてきた過去があったのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ありのままの自分たちが、社会に受け入れてもらえなさそうだったから。 ・差別や偏見の目を恐れて、自分らしく生きていくことが辛かったから。
価値発問 （道徳的価値を深める）	誰もが、自分らしく生きていくことのできる社会とは、どんな社会のことだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のありのままを受け止めてくれる社会。 ・傷つけられることなく温かく見守ってくれる社会。